allcinema

恋多き女（1956）

ELENA ET LES HOMMES
PARIS IS DOES STRANGE THINGS

メディア	映画
ジャンル	ロマンス　コメディ
製作国	フランス
色彩	Color
時間	99分
初公開日	1957/09/10
公開情報	東和
映倫	G
リバイバル	1981/11［ヘラルド］ 2018/03/03［川崎市アートセンター］（デジタル修復版）

【解説】

ルノワールらしい、少々デタラメな恋愛喜劇の秀作。バーグマンの芝居がウィットを欠くので、その野放図な良さが伝わりきらないが、後段など彼にしか表せない愛の讃歌となって、フランス人の恋愛至上主義をいぶかしく思う人も抵抗はできまい。美貌のポーランドの公爵未亡人で自由を満喫していたエレナは世話人の男爵夫人に製靴業で財を成したミショー氏を紹介され、結婚するよう言われる。彼女は関心なしだが、夫人の娘のドゥーニーズは氏の愚息ウージェーヌにお熱となった様子。が、彼はエレナの女給のロロドに夢中である（この、いわば下々の者の恋のさや当てがエレナたちの恋愛遊戯と対比して生き生きと描かれるのは、「ゲームの規則」でもおなじみのルノワールのタッチ）。おりしも、名将ローランの閲兵式の最中、見物に出て知り合った侯爵アンリ（ファーラー）は、エレナをローランに紹介。彼を大統領に立てようとする自分の政略に、彼女を利用しようと考える。ローランには同じく貴族未亡人のエスコフィエが付きまとうが、ヒナギクを贈って幸運をもたらすエレナに興味津々である。共和派と独裁派、ローランをめぐる争いは熾烈で、その思惑がお色気に搦み取られて、郊外のローランの隠れ家でドタバタと繰り広げられる段は傑作。そこへアンリに流し目を送るジプシーの歌姫――黒髪が印象的なＪ・グレコが、その髪の色に託して夜を謳うバラードを口ずさむと、あら不思議、ローラン万歳とそこに詰めかけて彼の外出を阻んでいた群衆はうっとりと恋のムードに染まり、ジプシーに化けてそこを逃げ出した彼の身代わりに窓際に立って歓呼に応えるアンリとエレナにつられるようにキスを交わし始めるのである。グレコが芸人たちをとらえ歌い出す瞬間の演出は素晴らしい。Ｊ・マレーの生真面目なユーモアが印象的。

【クレジット】

監督	ジャン・ルノワール	Jean Renoir	
脚本	ジャン・ルノワール	Jean Renoir	
	ジャン・セルジュ	Jean Serge	
撮影	クロード・ルノワール	Claude Renoir	
音楽	ジョセフ・コズマ	Joseph Kosma	
出演	イングリッド・バーグマン	Ingrid Bergman	エレナ・ソロコフスカ公爵夫人
	ジャン・マレー	Jean Marais	フランソワ・ロラン将軍
	メル・ファーラー	Mel Ferrer	アンリ・ド・シュヴァンクール伯爵
	マガリ・ノエル	Magali Noel	
	ジュリエット・グレコ	Juliette Greco	
	ジャン・リシャール	Jean Richard	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

ミシェル・ナダル	Michèle Nadal
ピエール・ベルタン	Pierre Bertin
サンドラ・ミーロ	Sandra Milo
ジャン＝クロード・ブリアリ	Jean-Claude Brialy
ジュリアン・カレット	Julien Carette
ジャック・カトラン	Jaque Catelain
グリゴリ・クマーラ	Gregory Chmara

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.